



The Japanese Association
of Organic Geochemists

Newsletter

Organic Geochemistry 69

Jan. 23, 2019

目次

Report 2

第 36 回有機地球化学シンポジウム（2018 年品川シンポジウム）開催される

山中寿朗・鶴哲郎

日本有機地球化学会の学会法人化における定款案について

奈良岡浩・奥井明彦・三瓶良和

2018年度有機地球化学会 研究奨励賞（田口賞）受賞者決まる

Invitation 12

第 37 回有機地球化学シンポジウム（2019 年金沢シンポジウム）

ファーストサーキュラー

長谷川卓

Information 13

2018 年度総会議事録

日本有機地球化学会 2019 年 年会費のお支払いについて
会費収納・会員管理システム「シクミネット」導入の進捗報告

Announcement 36

2019 年度有機地球化学賞（学術賞）候補者推薦の募集

研究奨励賞（田口賞）2019 年度受賞候補者の募集

ROG35 巻へ論文を投稿しましょう！！

日本有機地球化学会 シニア会員制度の新設について

日本有機地球化学会 入会および退会手続きのお知らせ

日本地球惑星科学連合（JpGU）への団体会員承認のお知らせ

編集後記 42

Report

第 36 回有機地球化学シンポジウム (2018 年品川シンポジウム) 開催される

第 36 回有機地球化学シンポジウム (2018 年品川シンポジウム) が 2018 年 8 月 30～31 日に東京海洋大学品川キャンパスで開催されました。参加者は 56 名で、口頭発表 25 件、ポスター発表 6 件が行われ、最新の研究成果が報告されました。活発な議論も繰り広げられ、盛夏の東京の暑さも吹き飛ばす賑わいとなりました。なお、学生優秀発表賞として、蛭田衣音さん (東北大学)、竹原景子さん (創価大学) が選ばれました。懇親会では閉場間際の築地市場直送の海鮮を楽しんでもらいながら、大いに親交を深めて頂いたものと思います。都心で開催のシンポジウムということもあり、巡検は開催できませんでしたが、盛会のうちに全ての行事を終了することが出来ました。参加者の皆様、シンポジウムの準備と運営をサポートしてくださった学生をはじめとした多くの関係者に感謝申し上げます。(山中寿朗、鶴哲郎)



シンポジウム集合写真 (上)、懇親会の様子 (下左)、学会会場の様子 (下右)

日本有機地球化学会の学会法人化における定款案について

将来計画委員会：奈良岡浩、奥井明彦、三瓶良和

昨年8月の東京海洋大学での日本有機地球化学会総会において、学会法人化のロードマップが修正され、本年8月末の金沢大学における日本有機地球化学会総会において法人化議決を行う予定で進んでいます。また、将来計画委員会を中心として、現理事および司法書士からもアドバイスをいただき、法人としての定款案を作成・検討を進めてきました。ロードマップに従い、その定款案をニュースレターにて公開させていただきます。会員の皆様には、本定款案をご検討の上、ご質問やコメントを5月31日までに奈良岡（naraoka@geo.kyushu-u.ac.jp）にご連絡いただきますようお願いいたします。

尚、今後の予定は以下のとおりです。

- ・2019年2～6月： 会員からの意見を集約
 - 定款案をニュースレター・ホームページで公開し、必要あれば定款案を修正
- ・2019年7月： 公証役場で定款の認証を受ける
- ・2019年8月： 理事会を経て、総会で法人設立を決議。
 - 定款および理事についても承認を得る
- ・2019年9月： 法人登記を行う

一般社団法人 日本有機地球化学会 定款案

第1章 総則

（名称）

第1条 この法人は、一般社団法人日本有機地球化学会（以下「本会」という）とする。

2 本会の英語名を The Japanese Association of Organic Geochemists（略称 JAOG）とする。

（事務所）

第2条 本会は、主たる事務所を札幌市に置く。

第2章 目的及び事業

（目的）

第3条 本会は有機地球化学に関する学理及びその応用についての研究発表、情報交換並びに国内外の関連学会との連携協力を行うことにより、有機地球化学の進歩発展を図り、もってわが国における学術の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 本会はその目的を達成するために次の事業を行う。

(1) 研究発表会、学術講演会及びシンポジウムの開催

- (2) 会誌及び学術図書の刊行
- (3) ニュースレターの発行
- (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
- (5) 関連学会との交流協力
- (6) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年7月1日から翌年6月30日までの年1期とする。

第3章 会員

(法人の構成員)

第6条 本会の会員は、次の5種とし、正会員及び名誉会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 本会の目的に賛同して入会した個人
- (2) 学生会員 本会の目的に賛同して入会した大学または大学院の学生である個人
- (3) 賛助会員 本会の目的に賛同し、本会の事業を賛助する団体または個人
- (4) シニア会員 本会に通算10年以上正会員として在籍し、常勤職に就いていない60歳以上の会員であって、本会所定の方法により認定を受けた個人
- (5) 名誉会員 有機地球化学または関連する分野において顕著な功績を有し、本会の発展に貢献し、理事会で審議・承認された個人

(入会)

第7条 本会の会員になることを希望する者は、所定の手続きを経て理事会の承認を得なければならない。

(会費)

第8条 本会の事業活動に生じる費用に充てるため、正会員及び学生会員、賛助会員は会費を支払わなければならない。会費の額は総会において別に定める。

2 名誉会員とシニア会員は、会費を納めることを要しない。

3 既納の会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

(任意退会)

第9条 会員は、別に定める退会届を理事会に提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

2 退会する会員は、未納の会費を納入しなければならない。

(除名)

第10条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) 本会の名誉及び信用を著しく傷つける行為を行った場合
- (2) 本会の目的を明らかに著しく損なう行為を行った場合

(3) その他除名すべき正当な事由があるとき

(会員資格の喪失)

第11条 会員は次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき
- (2) 除名されたとき
- (3) 破産手続開始の決定、後見開始の審判または保佐開始の審判を受けたとき
- (4) 第8条の会費の支払義務を2年以上履行しなかったとき
- (5) 当該会員が死亡し、もしくは失踪宣告を受け、または解散したとき

第4章 総会

(構成)

第12条 総会は、すべての正会員及び名誉会員をもって構成する。

2 前項の総会をもって一般法人法上の社員総会とする。

(権限)

第13条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 事業報告及び事業計画の承認
- (2) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
- (3) 理事及び監事の選任または解任
- (4) 定款の変更
- (5) 会員の除名
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) 理事会において総会に付議した事項

(開催)

第14条 総会は、定時総会として毎事業年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第15条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、会長が招集する。

2 総議決権の10分の1以上を有する正会員は、総会の目的事項及び招集理由を示して、会長に対して総会の招集を請求することができる。

(議長)

第16条 総会の議長は、総会に出席している正会員の中から選出する。

(議決権)

第17条 総会における議決権は、社員1名につき1個とする。

(決議)

第18条 総会の決議は、総社員の議決権の5分の1以上を有する社員が出席し、出席

した社員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定に関わらず、次の決議は、総社員の半数以上であつて、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 役員等の責任の一部免除
- (4) 定款の変更
- (5) 事業の譲渡
- (6) 解散及び継続
- (7) 吸収合併契約の承認及び新設合併契約の承認

3 社員は、代理人によってその議決権の行使ができる。

4 社員は、書面による議決権の行使ができる。

5 代理人及び書面により議決権を行使した者は、総会の出席者として取り扱う。

(議事録)

第19条 総会の議事については、総会に出席した理事1名が議事録を作成し、正会員から選出された議事録署名人1名以上が当該議事録に記名押印する。

第5章 役員

(役員の設定)

第20条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 15名以内
- (2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を会長、1名を副会長とする。

3 前項の会長及び副会長は、一般法人法上の代表理事とする。

(役員の選任)

第21条 理事及び監事は、別に定める選挙細則により正会員の中から選出する。

2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第22条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を遂行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本会を代表し、職務を総括する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは会長の職務を代行する。

(監事の職務及び権限)

第23条 監事は、本会の業務と財産状況並びに理事の職務の執行を監査し、法令に定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、理事に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況を調査することができる。

3 監事は、理事会に出席し、意見を述べることができる。

(役員任期)

第24条 役員任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する 定時総会の終結の時までとする。ただし、再任は妨げない。

2 補欠として選任された役員任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

(役員解任)

第25条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(責任免除)

第26条 本会は、役員一般法人法第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

第6章 理事会

(構成)

第27条 本会に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第28条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長及び副会長の選定及び解職

(招集)

第29条 理事会は、各理事が招集する。

(決議)

第30条 理事会の決議は、この定款に別段の定めがある場合を除き、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定に関わらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第31条 理事会の議事については、法令に定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第7章 資産及び会計

(事業計画及び収支予算)

第32条 本会の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始日の前日までに、会長が作成し、理事会の決議を経なければならない。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間、備え置きするものとする。

(事業報告及び決算)

第33条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）

(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号の書類については、定時総会に提出し、その承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置きするとともに、定款、会員名簿を主たる事務所に備え置きするものとする。

(剰余金の分配禁止)

第34条 本会は、剰余金の分配を行うことができない。

第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第35条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第36条 本会は、総会の決議その他法令に定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第37条 本会が清算する場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人または国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第38条 本会の公告は、電子公告により行う。

2 やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、官報に掲載して行う。

附則

第39条 この法人の設立当初の事業年度は、第5条の規定に関わらず、本会の成立の日から平成32年6月30日までとする。

第40条 この法人の設立時社員の氏名及び住所は次のとおりである。

住所 （今後決定）

氏名 （今後決定）

2018年度有機地球化学会 研究奨励賞（田口賞）受賞者決まる

2018 年度研究奨励賞（田口賞）は、同賞選考委員会で審議された後、理事会において、山口保彦博士および中田亮一博士に授与することが承認されました。2018 年度総会後に表彰式が行われ、賞状と副賞 5 万円が山口博士ならびに中田博士に贈られました。おめでとうございます。

研究奨励賞（田口賞）第 20 号

受賞者：山口 保彦博士（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 研究員（常勤職））

受賞題目：「アミノ酸の窒素同位体比を用いた水圏有機窒素の動態解析手法に関する開発と有機地球化学的研究」

山口会員はこれまでに、有機物の同位体比分析を軸に、物質循環、古環境学、微生物学、生態学など、幅広いテーマの独創的な研究を遂行してきた。特に、アミノ酸の化合物レベル安定窒素同位体比（ $\delta^{15}\text{N}$ ）を、環境中の非生物態有機窒素の動態解析手法として新規開発・応用した成果は、有機地球化学分野に新展開をもたらす開拓的研究として、世界的に高い評価を受けている。物質循環や生態系に重要な役割を果たしている環境中の有機窒素の動態を探る手法は従来限られていた中で、山口会員はまず微生物培養実験を行い、有機窒素の起源・動態をアミノ酸 $\delta^{15}\text{N}$ で解析する手法を新たに開発・確立した。さらに、高精度なアミノ酸 $\delta^{15}\text{N}$ 分析手法を新たに開発したことで、海水溶存有機物や海洋堆積物など環境試料への応用に成功し、その有機窒素の起源・動態（特に従属栄養微生物の寄与）に、世界初の重要な知見を得た。現所属に着任してからは、研究対象を海洋から陸水にも広げ、溶存有機物や堆積物など、環境中の有機物動態解明の研究をさらに発展させている。

なお、山口会員の研究成果は、査読のある国際学術誌に 3 編の筆頭論文（および 5 編の

共著論文）、国内学会誌に 1 編の筆頭論文（および 1 編の共著論文）として公表されている。また山口会員は、「地球惑星科学 学生と若手の会」や「地球化学若手シンポジウム」などの運営等で、若手研究者・学生世代のコミュニティ構築に、リーダーシップを発揮してきた。今後は、有機地球化学分野のコミュニティ発展への貢献も期待でき、環境中の有機物動態解明の研究をさらに発展させる能力があると思われる有望な若手研究者であることから研究奨励賞（田口賞）を受賞するに相応しいと判断される。

研究奨励賞（田口賞）第 21 号

受賞者：中田 亮一博士（国立研究開発法人 海洋研究開発機構 高知コア研究所 技術研究員）

受賞題目：「有機物－金属元素相互作用の開拓」

天然試料に含まれる希土類元素（REE）の濃度を参照試料中の濃度で規格化した REE パターンは、地球科学の諸分野で用いられてきた重要な地球化学的ツールである。中田会員は、原油というこれまで REE が分析されてこなかった試料への REE 地球化学の応用を進め、世界で初めて原油中の REE 存在度を高精度で報告し、共存する水との間の分配について議論を行った。この研究は、原油生成過程における REE の移行挙動に関する研究へと発展し、有機物－金属元素相互作用という新たな研究領域の開拓に繋がった。その一方で、泥火山における有機物－水－岩石相互作用についても研究を行い、泥火山リザーバーの深さ推定や噴出するガスの二次的な変質や、泥火山が放出するメタンの地球規模での量の評価など、多角的な視点で泥火山現象の理解を深めている。加えて、放射光を用いた X 線吸収微細構造（XAFS）を中心とした化学種解析を堆積岩試料へと適応し、堆積岩中の化学種変化に基づく古環境変動の解明と

いう新たな展開をもたらした。また中田会員は、XAFS 分析とマルチコレクター型 ICP 質量分析計を用いた重元素同位体比分析を組み合わせた研究を行い、地球化学の最先端分野で活躍している。

なお、中田会員の研究成果は、上記課題に対応する 4 編の論文を含む、査読のある国際学術誌に 10 編の筆頭論文（および 3 編の共著論文）および 1 編の著書（および 1 編の

共著著書）、国内学会誌に 2 編の筆頭論文として公表されている。今後も REE を含む重元素の分析での最先端研究と、有機物との関連につながるような研究能力および情報提供能力があると思われる有望な若手研究者であるため、研究奨励賞（田口賞）を受賞するに相応しいと判断される。

（研究奨励賞（田口賞）選考委員会）

Invitation

第 37 回有機地球化学シンポジウム (2019 年金沢シンポジウム) ファーストサーキュラー

第 37 回有機地球化学シンポジウム (金沢シンポジウム)

日程：2019 年 8 月 27 日 (火) ～8 月 29 日 (木)

場所：金沢大学自然科学図書館 (金沢大学角間キャンパス) および石川県政記念しいのき迎賓館 (旧石川県庁)

＊8 月 27 日の理事会は金沢大学自然科学図書館、28-29 日のシンポジウムは市内中心に位置する「石川県政記念しいのき迎賓館 (旧石川県庁)」で開催の予定。28 日夕方に総会を予定しています。

第 37 回有機地球化学シンポジウムは、北陸新幹線開業以降「観光都市」として国内外からの来客が絶えない、北の都「金沢」での開催となります。2007 年の第 25 回シンポジウム以来の金沢開催です。今回のシンポジウムは市内中心部の旧石川県庁舎「しいのき迎賓館」で開催の予定です。徒歩距離には日本三名園の一つに数えられる名勝・兼六園、加賀百万石・前田家の居城で、過去約 40 年間にわたって金沢大学メインキャンパスが置かれた金沢城、先進的な現代アートで近年注目度が高い金沢 21 世紀美術館、金沢大学理学部発祥の地でもある第四高等学校記念館、加賀藩士たちの旧邸宅が並ぶ長町武家屋敷跡などの観光スポットが数多くあり、百万石の武家文化と学都としての金沢の歴史を身近に感じていただくことができれば幸いです。また香林坊・片町の飲食店街も至近距離です。ここでは日本海の幸を肴に「加賀菊酒」を楽しみつつ、シンポジウムとは一味違った「有機」の議論を、旧知の研究仲間に新進気鋭の若手研究者も加わって活発に進めていただけると期待しています。

例年通りですと蒸し暑い日が続く 8 月末ですが、観光シーズンの真っ只中にあり、平日でもホテルの予約が取りにくいことが予測されます。どうか宿泊のご予約は早めにお手配ください。運営委員会を開催予定の金沢大学角間キャンパスへは金沢駅、香林坊、片町など市内主部からはバスで直接行けます。またシンポジウム会場の「しいのき迎賓館」は市内バスの中核地点である香林坊から至近ですので、市内どこに宿泊されてもバスでアクセス可能です。

金沢大学は、2008 年に理学部と工学部が合体して理工研究域・理工学域へと改組されました。そして理学部地球学科は理工学域自然システム学系地球学コースへと改組され、さらに 2018 年には同学域地球社会基盤学類地球惑星科学コースへと改組されました。これは地球科学分野の諸研究者が「異分野融合研究」の推進の期待を大きく背負っていることによるものだと感じています。第 37 回日本有機地球化学会シンポジウムを通じて、将来の科学を皆様と語り合えることを楽しみにしております。

(世話人：長谷川 卓)



写真左、中：シンポジウム会場 (予定) の「石川県政記念しいのき迎賓館」；右：金沢城石川門。かつての金沢大学正門。現在では観光客で賑わっています。

Information

2018 年度 総会議事録

- 1 日時 2018 年 8 月 30 日（木）17:00～18:30
- 2 会場 東京海洋大学（品川キャンパス） 白鷹館 2 階 多目的スペース 1
- 3 議長選出 金沢大学の長谷川卓会員を議長に選出した。
- 4 議事 1 ― 事業全般（事業、会計、会計監査）

4.1 会費収納・会員管理システム「しくみネット」導入の進捗

以下の内容について事務局から報告があり、「4.3 2017 年度事業・会計・会計監査報告」とともに出席者の賛成多数により承認された。

(1) オンラインシステムで納付された会員からの所感・コメント

- ・シクミネットは、大変良いシステムである。各会員自身による「電子領収書」の発行ができるのは、便利でありがたい。
- ・ID・パスワード送付の際、差出人が「シクミネットサポートセンター」となっている。一般会員は、この差出人を見てジャンクメールと誤ってしまうかも知れない。
- ・ブラウザが古い場合、システムが進まない可能性があるのではないか。
- ・会費支払い手続きで、「入会・更新案内」のボタンの後で「お支払い明細選択」で会費をチェックして、「次へ」のボタンを押すと、「お支払い内容確認」のところで、選択するボタンが「戻る」と「完了」になる。ここも「次へ」が良いような気がする。
- ・領収書に何年度の会費であるのか明示されていないので、領収書に年度と会費である旨、記述したほうが良いのでは。

(2) 年会費の納付状況をリアルタイムで確認

- ・事務局は入金状況をリアルタイムで把握できる（2018 年 1 月 12 日～19 日の例）。高確度な電子記録をエクセルでエクスポートでき、例えば、年度末の会計監査が効率的に行える。各会員と事務局の双方から、納付・未納状況の情報共有を「可視化」できる点が大きな利点である。

(3) 事務局で対応できない場合のテクニカルサポートの窓口の設置

- ・個人 ID でログイン後、会員サイトから窓口を参照できる。

(4) その他関連事項

- ・2017 年以前で未入金がある会員、前納預かり金に不足がある会員への追加徴収（2018 年 1 月 4 日理事会通達）は、個別に連絡している（財務）。
- ・未納分の踏み倒しによる一方的な退会への対応について苦慮している（財務担当、会員担当）。
- ・退会の申出があった場合には、未納分を支払って頂いたのちに、退会承認とする基本方針は、従来通り。特に、学生会員を持たれている指導教官の皆様には、この点について、改めてよ

ろしくお願いいたします（事務局）。

- ・従来、財務担当が手作業で行っていた煩雑な入金管理が、可視化され、二度手間・三度手間を生じず、現財務・事務局と時間差無く（リアルタイムで）情報共有できる体制になり、学会の運営基盤が強化されたと考える（会員担当）。

(5) 日本有機地球化学会入会の手続き

- ①入会希望者からの Web 受付 <<http://www.ogeochem.jp/howto.html>>
- ②理事会での承認
- ③オンラインシステムでの会員 ID の発行
- ④入会希望者の年会費の入金確認
- ⑤会員登録後の対応

(6) 日本有機地球化学会退会の手続き

- ①退会希望者からの事務局受付
- ②年会費未納分がある場合
- ③事務局での退会承認
- ④オンラインシステムでの会員 ID の扱い
- ⑤退会後の対応

(7) 日本有機地球化学会オンライン決済システム

- ・会員様専用サイト <<https://m6.members-support.jp/ogeochem/>>

4.2 学会法人化に向けた進捗と予定

以下の内容について将来計画委員会から報告があり、「4.3 2017 年度事業・会計・会計監査報告」とともに出席者の賛成多数により承認された。

(1) 昨年度の総会（2017 年 8 月高知開催）以降の検討事項

- ・税金支払い等が毎年度必要だが、「一般社団法人」を目指すこととした。
- ・法人化の際に事務所を登記する必要があるため、一定期間事務局を運営して頂ける所を探した。
- ・その結果、会員が多い北海道大学から引き受けても良いと手を挙げて頂いたため、事務局を現在の国際石油開発帝石株式会社（東京）から移転することとした。
- ・法人化の際、学会所在地を北海道大学に置きたい旨、大学側にお願いしたが断られている。札幌市内の学会代行センター等のバーチャルオフィスを利用するオプションもあるが、コストが掛かるため現在検討中である。
- ・法人化手続きは札幌在住の司法書士や行政書士から契約先を選定中。選定後に規約案や登記書類作成等の実務作業に移る。
- ・法人化コストの再検討を行った。大体以下の通り。
 - i) 法人化コストは 30 万円（今年度の承認予算額は 45 万円）。
 - ii) 年間維持コストは 7 万円（税金、登記内容変更等）。バーチャルオフィスを利用する場合、さらに 5 万円必要。
- ・維持コストは小さな金額ではなく、当面繰越金（180 万円）を切り崩すあるいは学会誌のデ

デジタル化等によるコスト削減が必要となる。田口基金（145 万円）の流用等もオプションとして考えなくてはならず改めて会員に相談する。

- ・総会の開催時期となるシンポジウム開催時期および昨年度の総会に出席できなかった会員も含めて、再度法人化についてのご意見・コメントのアンケート実施（4 月 26 日～5 月 27 日）。
- ・アンケート結果から総会の開催時期を8月とし、事業年度（会計年度）の開始を7月とする。これは、年度替わり後の3か月以内に総会開催が必要であるためである。

(2) アンケート結果

①年会の開催時期

- | | |
|-------------------|------|
| ・8月（例年通り） | 12 票 |
| ・5～6月（連合大会内開催も含む） | 4 票 |
| ・11～12月 | 2 票 |
| ・2～3月 | 2 票 |
| ・いつでも良い | 1 票 |

②法人化に関してのご意見・コメント（自由記述）

- ・法人化に賛成。有機地球化学のコミュニティを、正規の法人にすることは、これからこの分野で研究を行いたい、と考える次世代の研究者にとって、安心して参加できる要素の1つになる。
- ・会員への負担等の問題はあるかと思いますが、メリット（預金口座の開設など）を考慮する限り、法人化は妥当。
- ・法人化は賛成。他方、法人化されたら、これまでの本会の良さでもあり不足点でもある、同好会/同窓会的な特色は大きく変えていく必要がある。
- ・法人化は、避けられない。学会所在地は、コストとの兼ね合い。事務局に多大な負担がかからないことを第一に検討の必要あり。
- ・法人化は進行せざるを得ない。初期投資は後の進行が楽になるようにできるかぎり許容。維持コストは財産切り崩しやむなし。
- ・学会予算で間に合う範囲で、担当の方々の手間がかからないような形が良い。事務局を外に置くにしても、実際の事務局担当者と離れると難しい。
- ・総会員数が緩やかな減少傾向にある中、法人化コストが学会運営に及ぼす大きな影響が不安。新規会員の増加ため、人目に付きやすい連合大会で年会を開催し、色々な面で年会参加の敷居を下げるのが重要か。
- ・法人化後の事務局負担がどの程度なのか情報が欲しい。今以上の負担増はあまり好ましくない。場合によっては、日本地球惑星科学連合の団体会員等に登録した上で、社会的認知度の向上を図る。
- ・本格的な学会を目指すならば、法人化は必要。
- ・法人化するには、法人に相応しい組織であることが重要。定款を作る時には、総会の定足数や決議方法について記載するはずですが、現在の有機地球化学会の会則にはない。法人化という重要な議案を多くの会員に周知することなく、参加者の少なかった高知大会の総会で決

定したことは、感心しない。法人化後の定款に合う形で、できることから会則の変更をすべき。総会の定足数や委任状の提出、委任状を含む参加者の過半数での決議などは必要。昨年の選挙も、公示やメールでの周知などは選挙規則通りには行われていなかった。法人化後はこれらも事業監査の対象となる。法人化後の対応では急に高いハードルを越えることになり、2-3年はバタバタする。ソフトランディングできるように、早めの対応が必要。

(3) 法人化における今後の対応

昨年の総会で将来計画委員会から提案した学会法人化のロードマップでは今年度の総会（東京海洋大学）で法人設立を決議する予定だったが、それを変更し、今年度の総会において、さらに法人化にむけての議論をかさねた上で作業を進める。

①今後の予定

- ・2018年8月 総会で法人化作業の現状報告および議論（事務所所在地および予算等）、会則の改訂（総会の定足数や決議方法等を追加）。
- ・2018年9月～2018年12月 定款案作成
- ・2019年1～5月 会員からの意見を集約、定款案をニュースレター・ホームページで公開し、必要あれば定款案を修正。
- ・2019年6月 公証役場で定款の認証を受ける。
- ・2019年8月 理事会を経て、総会で法人設立を決議。定款および理事についても承認を得る。
- ・2019年9月 事務所所在地で法人の登記を行う。

※法人化後初年度の事業・会計年度は2020年6月末日まで。

②その他の多くの問題

- ・現行の理事と法人化後の理事の任期（来年は理事選挙）。
- ・6か月分の会費徴収をどうするか。

4.3 2017年度事業・会計・会計監査報告（2017年1月1日～12月31日）

以下の内容について事務局および金子監事から報告があり、「4.1 会費収納・会員管理システム『しくみネット』導入の進捗」および「4.2 学会法人化に向けた進捗と予定」とともに出席者の賛成多数により承認された。

(1) 出版・発行関係

- ・ニュースレター No. 65（1月1日）、No. 66（7月4日）発行
- ・ROG Vol. 33 No. 1（2017年12月30日）発行、35ページ

(2) 会議関係

- ・学術賞受賞候補者選考委員会（2017年5月～7月、emailにて）
- ・田口賞受賞候補者選考委員会（2017年5月～7月、emailにて）
- ・運営委員会（2017年8月29日・高知県立大学、emailにて随時）
- ・第35回有機地球化学シンポジウム（2017年8月30日～31日・高知県立大学）
- ・総会（2017年8月30日、高知県立大学 教育研究棟1階 A101）
- ・将来計画委員会 学会法人化の検討と準備

- ・ROG 編集委員会、記念事業・マニュアル編集委員会
- ・共催 日本地質学会堆積部会所属 4 セッション（2017 年 9 月 16 日～9 月 18 日、愛媛）

(3) 事務局関係

- ・ROG の電子化 J-STAGE に ROG 最新号（第 32 巻）登録
- ・賛助会員の勧誘、シンポジウム協賛の勧誘
- ・会費収納・会員管理システム「しくみネット」の導入、ホームページの更新
- ・会費滞納者への働きかけ
- ・日本学術会議ほかからの情報の配信（20 件）、各種応募案内（7 件）

(4) 2017 年度会計実績

- ・一般会計

大項目	小項目	2017 年			コメント
		予算	修正予算	決算	
収入	賛助会費	200,000	200,000	180,000	賛助会費未払い1件
	個人会費	180,000	180,000	182,000	会費振替口座参照
	ROG販売	10,000	30,000	0	
	シンポジウム・剰余金	60,000	60,000	239,500	2016大阪シンポ返金(109,500円)
	利子ほか	100	100	13	
	計	450,100	470,100	601,513	
前年繰越金		2,239,879			2016年度決算報告(総会承認)
総計(=繰越金+決算収入)		2,841,392			
支出	ROG印刷費	300,000	300,000	251,316	
	ROG送料	30,000	30,000	11,016	
	HP維持費	28,000	28,000	28,836	
	シンポジウム費	50,000	50,000	47,094	2017高知シンポジウム
	事務局経費・雑費	60,000	120,000	104,037	
	計	468,000	528,000	442,299	
総計(=収入-決算支出)		2,399,093			次年度繰越金

前年繰越金は2016年度決算により総会承認済み。

会費振替口座残高	786,697
一般会計口座残高	1,612,396

- ・田口基金

大項目	小項目	2017 年			コメント
		予算	修正予算	決算	
収入	利子	14	14	0	
	借入	0	0	0	
	計	14	14	0	
前年繰越金		145,174			
総計(=繰越金+決算収入)		145,174			
支出	副賞(田口賞)	50,000	50,000	50,000	当該年度の受賞者1名
	関連経費	0	0	144	振込手数料
	計	50,000	50,000	50,144	
総計(=収入-決算支出)		95,030			

前年繰越金は2016年度決算により総会承認済み。

田口基金口座残高	95,030
田口基金定期預金	1,400,000

【参考】2016 年度大阪シンポジウム会計実績

大項目	中項目	小項目	単価	個数	計	コメント
収入	参加費 (懇親会費込)	正会員(早期)	7,000	16	112,000	
		正会員(最終)	8,000	9	72,000	
		非会員(早期)	8,000	0	0	
		非会員(最終)	9,000	6	48,500	1名懇親会不参加(3000円支払)
		学生会員(早期)	(5,000)	3	0	学生は参加費免除
		学生会員(最終)	(6,000)	1	0	同上
		学生非会員(早期)	(6,000)	10	0	
		学生非会員(最終)	(7,000)	6	0	同上
		招待	0	7	0	招待者は参加費免除
		計			232,500	
	助成金	東京地学協会			1,000,000	
		会員司会員			100,000	後述 学生参加費分
	協賛会	グステル株式会社		30,000	学会へ振込	
		アジレント・テクノロジー株式会社		10,000	学会へ振込	
		株式会社地球科学総合研究所		10,000	学会へ振込	
		石油資源開発株式会社		10,000	学会へ振込	
		JX石油開発株式会社		10,000	学会へ振込	
		サーモ・フィッシャー・サイエンティフィック株式会社		30,000	学会へ振込	
		ナノフォン株式会社		20,000	学会へ振込	
		日本カンタム・デザイン(株)		20,000	学会へ振込	
		ジャスコインタナショナル株式会社		30,000	学会へ振込	
		計			170,000	学会振込分の16万円でCashさんへの旅費支出
	学会経費	学会経費			220,000	
		シンポジウム予備費			50,000	
		雑費			30,000	
		計			300,000	
		合計			1,802,500	

支出	経費	金額	コメント
	要旨集印刷費	75,600	
	クレジット決済代付(4ヶ月分)	43,442	
	ポスター一頁印刷	5,060	
	名札追加分	2,882	
	レーザープリンター・USB代	3,982	
	コピー代	900	
	計	131,826	
	資料料		
	ワークショップ会場費2日分(税込)	205,200	
	プロジェクトスクリーンセット2日分(税込)	108,000	
	無線マイク2本、2日分(税込)	10,800	
	ポスターパネル	81,972	
	運営委員会会場費	3,000	
	計	408,972	
	招待者		
	海外招待者旅費 5名	418,800	Cashさん運搬費一部16万円
	謝金(国内・海外) 8名	205,595	
	計	624,395	
	助成金+協賛金相当計	1,165,193	
	飲食費		
	懇親会費	417,960	
	コーヒー代	48,600	
	お菓子代	7,214	
	計	473,774	
	合計	1,638,967	
収支	収入	1,802,500	
	支出	1,638,967	
	収支	163,533	うち東京地学協会助成金種金54033円
	東京地学協会助成金の残金返還	-54033	(助成金の代表者:池原実)
	日本有機地球化学会への返金合計	109,500	(返金者:藤田ひかる)

(5) 2017 年度会計監査

会計監査報告

日本有機地球化学会一般会計および田口基金の2017 年度会計報告を、出納簿、請求書、郵便貯金および振替口座、その他提示された証明書類に基づいて審査した結果、それが正確に処理されていると認められましたので、ここに報告致します。

平成 30 年 1 月 24 日

監事 金子 信行



4.4 2018 年度事業・会計中間報告・今後の計画

以下の内容について事務局から報告と提案があり、出席者の賛成多数により承認された。

4.4.1 2018 年度事業・会計中間報告（2018 年 1 月 1 日～6 月 30 日）

(1) 出版関係

- ・ニュースレター No. 67（1 月 31 日）、No. 68（7 月 2 日）発行

(2) 会議関係

- ・理事会（email にて随時）
- ・学術賞受賞候補者選考委員会（2018 年 6 月～8 月、email にて）
- ・田口賞受賞候補者選考委員会（2018 年 5 月～8 月、email にて）
- ・シンポジウム実行委員会（email にて随時）
- ・NL 編集委員会（email にて随時）
- ・ROG 編集委員会、記念事業・マニュアル編集委員会
- ・将来計画委員会（email にて随時）

(3) 事務局関係

- ・賛助会員の勧誘、シンポジウム協賛の勧誘、シニア会員制度の立案
- ・会計処理、会員管理、ホームページの更新
- ・会費収納・会員管理システム「しくみネット」の運用
- ・会費未納者への働きかけ、長期財務計画の検討
- ・事務局会議（email にて随時）
- ・日本学術会議ほかからの情報の配信（8 件）、各種応募案内ほか（7 件）

4.4.2 2018 年度事業・会計の今後の計画（2018 年 7 月 1 日～12 月 31 日）

(1) 出版関係

- ・ROG Vol. 34 No.1 発行

(2) 会議関係

- ・理事会（2018 年 8 月 29 日、東京海洋大学 9 号館 2 階会議室、email にて随時）
- ・第 36 回有機地球化学シンポジウム（2018 年 8 月 29 日～31 日、東京海洋大学）
- ・総会（2018 年 8 月 30 日、東京海洋大学 白鷹館 2 階多目的スペース）
- ・NL 編集委員会（email にて随時）
- ・ROG 編集委員会（email にて随時）
- ・記念事業・マニュアル編集委員会
- ・将来計画委員会（email にて随時） → 法人化ロードマップの計画と遂行
- ・共催 日本地質学会第 125 年学術大会（2018 年 9 月 5 日～7 日、北海道大学）

(3) 事務局関係

- ・会計処理、会員管理、ホームページの更新
- ・会費収納・会員管理システム「しくみネット」の運用
- ・会費未納者への働きかけ、長期財務計画の検討
- ・日本学術会議からの情報の配信、各種応募案内、外部からの依頼対応ほか

(4) 2018 年度会計中間実績および見通し

一般会計

大項目	小項目	2018年度					コメント
		当初予算	修正予算	上期実績	下期見通し	増減	
収入	賛助会費	200,000	200,000	20,000	200,000		昨年度請求の未払い分1件を含む
	個人会費	300,000	300,000	322,000	246,000		2018年度年会費 ¥171,000 2017年度以前の年会費 ¥137,000 (下期 ¥11,000) 年会費改定による前納年会費不足分 ¥14,000 (下期 ¥3,000) 2018年度年会費未払い分 (¥403,000 - ¥171,000 = ¥232,000)
	ROG販売	30,000	30,000	4,410	0		
	シンポ協賛金・剰余金	60,000	60,000	0	60,000		
	シンポ参加費	100,000	192,000	0	192,000	92,000	品川シンポ2018 (会員40名、非会員11名)
	利子ほか	100	10	7	6	-90	
	計	690,100	782,010	346,417	698,006		
前年度繰越金		2,399,093	2,399,093		2,399,093		
	総計	3,089,193	3,181,103		3,443,516		
支出	ROG印刷費	300,000	300,000	143,964	0		
	ROG送料	30,000	30,000	19,980	0		
	HP維持費	28,000	28,000	0	28,000		
	シンポジウム費	50,000	100,000	0	100,000	50,000	(参考) 高知シンポ2017 ¥98,378 (懇親会費は除く)
	事務局経費・雑費	200,000	210,000	101,366	108,634	10,000	オンラインシステム維持費 ¥196,728, 手数料 ¥2,592
	法人化関連費	450,000	200,000	0	200,000	-250,000	定款案作成費
	計	1,058,000	868,000	265,310	436,634		
次年度繰越金		2,031,193	2,313,103		2,741,572		

前年度繰越金は今年度決算により修正 (次年度繰越金も運動)

田口基金

大項目	小項目	2018年度					コメント
		当初予算	修正予算	上期実績	下期見通し	増減	
収入	利子	14	0	0	0	0	
前年度繰越金		1,495,030	1,495,030		1,495,030		
	総計	1,495,044	1,495,030		1,495,030		
支出	副賞 (田口賞)	50,000	100,000		100,000	50,000	品川シンポ2018 田口賞2名
	関連経費	0	0		0	0	
	計	50,000	100,000		100,000	50,000	
次年度繰越金		1,445,044	1,395,030		1,395,030		

前年度繰越金は今年度決算により修正 (次年度繰越金も運動)

4.5 日本地球惑星科学連合 (JpGU) への加盟について

以下の内容について事務局から提案があり、「4.6 2019 年度事業・会計計画」とともに出席者の賛成多数により承認された。

(1) 団体加盟によるメリット

- ・日本有機地球化学会の社会的認知度の向上を図ることができる。この点は、先の将来計画委員会への意見・提言の中にも挙げられている。
- ・JpGU とのタイアップは、新しい会員参入 (特に若手会員) の呼び込みになる。高校生や学部生にも認知される機会を持つことは本会にとっても有益である。
- ・Impact Factor 2.5 のジャーナル (PEPS 誌) との連携を図ることができる。地球惑星科学の学術コミュニティから ROG 誌を認知される機会にもなる。などのメリットが考えられ、団体年会費 10,000 円は合理的と考えられる。

(2) 関連する事項

- ・代表者会合 (年に最大 2 回程度) が行われる。理事会の代表者 1 名が、連絡窓口になる必要がある。

→高野理事が連絡窓口を務める。

(3) 団体加盟リスト <<http://www.jpgu.org/organization/societies.html>>



The screenshot shows the Japan Geoscience Union (JpGU) website. The header includes the JpGU logo, navigation links (トップページ, 日本地球惑星科学連合とは, 団体会員 (参加学協会), 連合大会, Progress in Earth and Planetary Science), a search bar, and a language selector (English). A sidebar on the right contains links for ログイン, 入会・会員サービス, My JpGU, YouTube 過去の講演会, Facebook, Twitter, サイエンスセクション, 連合大会, 顕彰・表彰, 組織, 関連イベント, 刊行物, 公募求人, and 日本学術会議. The main content area is titled '団体会員 (地球惑星科学関連学協会)' and includes a message to members about login and updates. Below this is a table listing 49 member societies as of March 31, 2017. The table is organized into three columns. The footer contains the address of the JpGU Secretariat and copyright information.

団体会員 (地球惑星科学関連学協会)

団体会員の皆様へ：
ご登録情報に変更がありましたら、下記サイトにログインして変更をお願いいたします。
<日本地球惑星科学連合 団体会員サイト>

団体会員 (2017年3月31日現在 49団体)

一般社団法人日本宇宙生物科学会	生命の起源および進化学会	地理教育研究会
一般社団法人 日本応用地質学会	石油技術協会	一般社団法人地理情報システム学会
日本温泉科学会	公益社団法人 日本雪氷学会	公益社団法人東京地学協会
日本海洋学会	日本測地学会	東北地理学会
特定非営利活動法人日本火山学会	日本大気化学会	土壌物理学会
形の科学会	日本堆積学会	一般社団法人日本粘土学会
日本活断層学会	日本第四紀学会	日本農業気象学会
公益社団法人 日本気象学会	日本地学教育学会	公益社団法人物理探査学会
一般社団法人 日本鉱物科学会	地学団体研究会	陸水物理研究会
日本地圏学会	公益社団法人日本地下水学会	一般社団法人 日本リモートセンシング学会
日本古生物学会	日本地球化学会	日本惑星科学会
日本沙漠学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	地球環境史学会
資源地質学会	日本地形学連合	日本大気電気学会
公益社団法人日本地震学会	一般社団法人日本地質学会	
日本情報地質学会	日本地熱学会	
日本水文科学会	地理科学学会	
一般社団法人水文・水資源学会	公益社団法人日本地理学会	
生態工学会	日本地理教育学会	

公益社団法人日本地球惑星科学連合
所在地：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階
All Rights Reserved, Copyright 2005-2017 Japan Geoscience Union

4.6 2019 年度事業・会計計画 (2019 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

以下の内容について事務局から提案があり、「4.5 日本地球惑星科学連合 (JpGU) への加盟について」とともに出席者の賛成多数により承認された。

(1) 出版・発行関係

- ・ニュースレター No. 69、No. 70 発行
- ・ROG Vol. 35 発行

(2) 会議関係

- ・第 37 回有機地球化学シンポジウム
- ・総会
- ・理事会
- ・学術賞受賞候補者選考委員会、田口賞受賞候補者選考委員会
- ・シンポジウム実行委員会、NL 編集委員会
- ・ROG 編集委員会、記念事業・マニュアル編集委員会、将来計画委員会 (法人化ロードマップの遂行)

(3) 事務局関係

- ・賛助会員の勧誘、シンポジウム協賛の勧誘、長期財務計画の検討
- ・会計処理、会員管理、ホームページの更新、「しくみネット」の運用、ROG 電子化（J-STAGE）、日本地球惑星科学連合（JpGU）への加盟
- ・日本学術会議からの情報の配信、各種応募案内、外部からの依頼対応
- ・役員選挙

(4) 2019 年度会計計画

一般会計

大項目	小項目	2017年度	2018年度	2019年度	コメント
		決算	通期見通し	予算	
収入	賛助会費	180,000	220,000	200,000	
	個人会費	182,000	568,000	403,000	正会員125名、学生会員28名
	ROG販売	0	4,410	2,000	
	シンポジウム協賛金・剰余金	239,500	60,000	60,000	(参考) 品川シンポ2018 ¥60,000
	シンポ参加費	0	192,000	200,000	
	利子ほか	13	13	10	
	計	601,513	1,044,423	865,010	
前年度繰越金		2,239,879	2,399,093	2,741,572	
	総計	2,841,392	3,443,516	3,606,582	
支出	ROG印刷費	251,316	143,964	300,000	
	ROG送料	11,016	19,980	30,000	
	HP維持費	28,836	28,000	28,000	
	シンポジウム費	47,094	100,000	100,000	
	事務局経費・雑費	104,037	210,000	220,000	オンラインシステム維持費、JpGU年会費、手数料（¥432 x 12
	法人化関連費	0	200,000	250,000	定款案作成費
	計	442,299	701,944	928,000	
次年度繰越金		2,399,093	2,741,572	2,678,582	

前年度繰越金は今年度決算により修正（次年度繰越金も連動）

田口基金

大項目	小項目	2017年度	2018年度	2019年度	コメント
		決算	修正予算	予算	
収入	利子	0	0	0	
前年度繰越金		1,545,174	1,495,030		
	総計	1,545,174	1,495,030	1,395,030	
支出	副賞（田口賞）	50,000	100,000	50,000	
	関連経費	144	0	0	
	計	50,144	100,000	50,000	
次年度繰越金		1,495,030	1,395,030	1,345,030	

前年度繰越金は今年度決算により修正（次年度繰越金も連動）

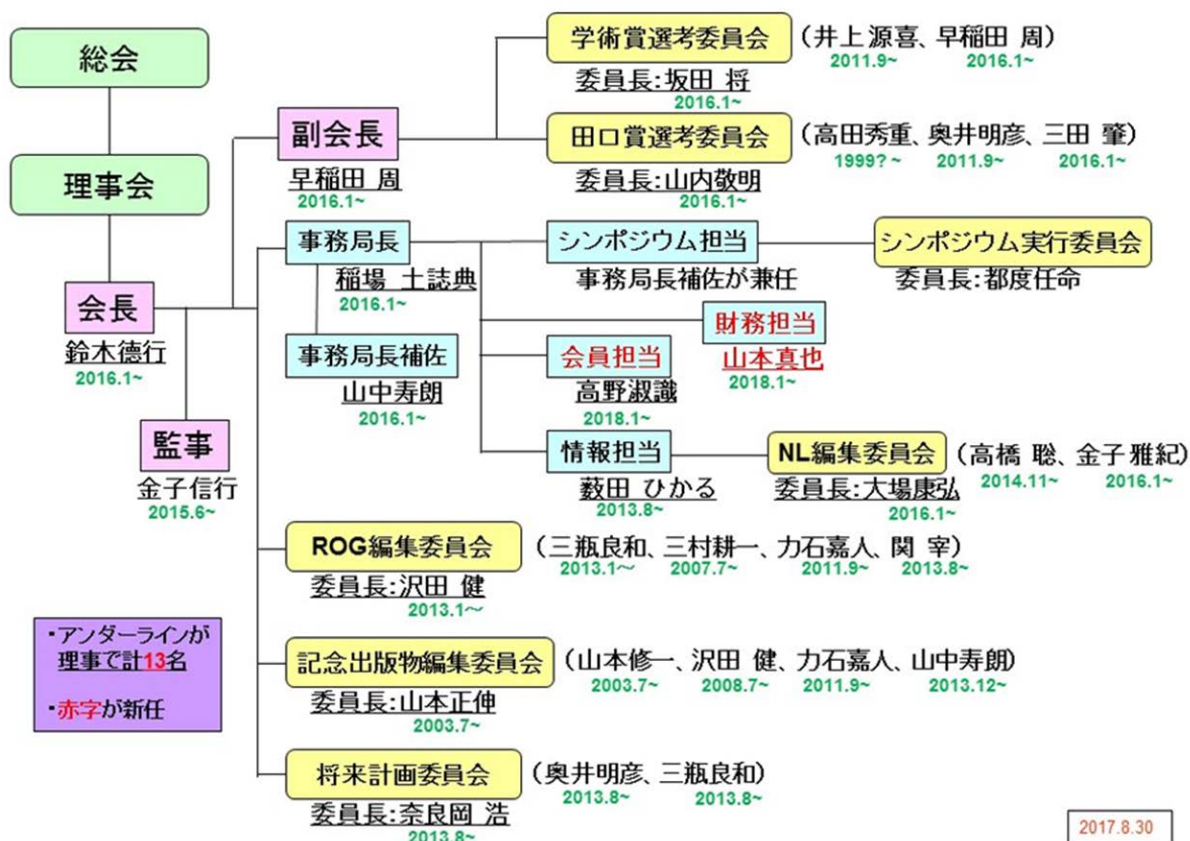
5 議事 2 — 役員および会則

5.1 2018～2019 年度日本有機地球化学会組織

役員およびその他の委員の役職と組織について、鈴木会長より以下の報告があった。

2018-2019

日本有機地球化学会組織図



5.2 学会法人化に向けた会則の改定

以下の内容について将来計画委員会から提案があり、出席者の賛成多数により承認された。

■日本有機地球化学会会則 第7条

【現 行】通常総会は会長が招集し毎年1回開く。必要に応じて臨時総会を開くことができる。
通常総会においては次の事項の承認を受ける。

- (1) 前年度の事業・会計報告
- (2) 当該年度の事業・会計中間報告及び計画
- (3) 次年度の事業・会計計画
- (4) その他理事会よりの提案事項

【改定案】通常総会は会長が招集し毎年1回開く。必要に応じて臨時総会を開くことができる。
総会は委任状を含め正会員および名誉会員の5分の1以上の出席をもって成立し、次の事項について、出席者の過半数の賛成で議決する。

- (1) 前年度の事業・会計報告
- (2) 当該年度の事業・会計中間報告及び計画
- (3) 次年度の事業・会計計画
- (4) その他理事会よりの提案事項

ただし、会員の除名および会則の変更等の重要事項については出席者の3分の2以上の賛成で議決する。

5.3 シニア会員制度の創設

以下の内容について鈴木会長から提案があり、出席者の賛成多数により承認された。

■経緯

- ・昨年 2017 年 11 月、本学会前身の有機地球化学談話会から会員を続けてこられた方より、本学会からの退会が申請された。
- ・ある年齢を超えた長年会員を継続している会員は、シニア会員として会費を徴収しない制度を設けてはどうか（鈴木会長ご意見）。
- ・退会を申請された方から「シニア会員制度（仮称）は退職者にはたいへんありがたい制度であり、実現した際には再入会したい」との意見が寄せられた。

■理事会への会長提案

- ・本学会も歴史を重ね、長年にわたって会員を続けてこられた方々がいらっしゃいます。このような方々がある年齢に達して退職した後も、本学会員として継続して本学会をサポートしていただけるのであればこの上ないと思います。
- ・本学会にも、このような方々を対象にした会費を徴収しないシニア会員制度を設けてはどうかと考えています。会誌を送付しない、あるいは会誌を電子化して PDF 版のみとすることなども合わせて検討して、予算上の問題を解決することも必要かもしれません。
- ・最近になって、シニア会員の対象となられそうな方々から退会届が出されているということのようです。会費値上げもある程度関係しているのかもしれませんが。そういう状況ですので早い時期にこの議論を開始し、会員の皆様にそういう状況であることが暗に伝わるようにしたいと考えています。
- ・この件について、会長、副会長、事務局長で事前に相談しました。理事の皆様のご意見を参考にしてたたき台を修正し、来年度の理事会、総会でまとめたいと考えていますので、お時間のあるときに気軽にご意見をいただけると幸いです。

■シニア会員に関わる会則の改定 第 4 条

【現 行】本会の会員は、本会の目的に賛同し事業に参加する者で、理事会の承認を受けた者とし、次の 4 種とする。

- (1) 正会員
- (2) 学生会員
- (3) 賛助会員

本会の目的を賛助し、第 6 条に定める賛助会員会費を納める団体または個人

- (4) 名誉会員

有機地球化学または関連する分野において顕著な功績を有し、本会の発展に貢献した個人で、理事会で審議・承認し、総会に報告する。

【改定案】本会の会員は、本会の目的に賛同し事業に参加する者で、理事会の承認を受けた者とし、次の 5 種とする。

- (1) 正会員

正会員は総会における議決権ならびに選挙権と被選挙権を有する。

- (2) 学生会員

学生会員は総会に陪席することができる。

(3) 賛助会員

本会の目的を賛助し、第6条に定める賛助会員会費を納める団体または個人

(4) シニア会員

60歳以上の会員（正会員歴通算10年以上）で常勤職に就いていない個人

シニア会員は総会に陪席することができる。

(5) 名誉会員

有機地球化学または関連する分野において顕著な功績を有し、本会の発展に貢献した個人で、理事会で審議・承認し、総会に報告する。

名誉会員は総会における議決権を有する。

■シニア会員に関わる運用規定の制定（新設）

会則第4条にもとづきシニア会員制度を次のように運用する。

1（資格） 以下の条件をすべて満たす者は、シニア会員に申請することができる。

(1) 申請時に60歳以上、かつ正会員歴が通算10年以上あること。

(2) 常勤職に就いていないこと。

(3) 会員期間の会費が完納されていること。

2（申請・承認） シニア会員を希望する者は事務局に申請する。事務局による資格確認を経て、理事会にて承認を受ける。

3（年会費） シニア会員の年会費は無料とする。

4（権利） シニア会員は以下の学会サービスを受けることができる。

(1) ニュースレターなどの電子出版物・案内の配信。

(2) 年会・シンポジウム等への参加（参加費は学生会員と同額）。

ただし、学会誌は有料とし、選挙権・被選挙権、総会議決権がない。

6 議事3 — 委員会活動

6.1 学術賞選考委員会

坂田委員長より以下の学術賞選考結果の報告があった。

2018年度有機地球化学賞（学術賞）について、例年どおり学会公示により選考候補者の推薦を募集した。当初の応募締切（5月末）の時点では推薦がなかったため、締切を6月末まで延長したが、推薦は得られなかった。よって2018年度有機地球化学賞（学術賞）は受賞候補者なしとの結論に至ったことを鈴木会長に答申した。

6.2 田口賞選考委員会

山内委員長より以下の田口賞選考結果の報告があった。

・受賞者1 山口 保彦 会員

・所属・職名 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 研究員（常勤職）

・研究題目 アミノ酸の窒素同位体比を用いた水圏有機窒素の動態解析手法に関する開

発と有機地球化学的研究

- ・受賞者2 中田 亮一 会員
- ・所属・職名 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 高知コア研究所 技術研究員
- ・研究題目 有機物－金属元素相互作用の開拓

6.3 ROG 編集委員会

沢田委員長に代わり、三瓶委員から以下の報告があった。

(1) Researches in Organic Geochemistry Volume 34 (34 巻) 編集状況

Vol. 34、No. 1 を 2018 年 12 月に刊行予定。

- ・投稿論文は現時点でなし。
- ・昨年からの投稿・審査状況は別紙「ROG_Processing180812 運営委資料」に記載。
- ・昨年同様、Vol. 34、No. 1 は 12 月に PDF ファイルを Web 公開、印刷は 2019 年 1 月以降。

※この数年、投稿数が大変少ないので、呼びかける。

(2) 学術賞および奨励賞（田口賞）受賞記念論文

- ・学術賞受賞記念論文：2013 年度受賞者 坂田会員に執筆を依頼している。

→次の受賞者にも依頼する予定。

- ・奨励賞(田口賞)受賞記念論文：2015 年度受賞者 中村英人会員に執筆を依頼している。Vol. 34 に掲載予定。

→次の受賞者にも依頼する予定。

(3) ROG の冊子体廃止についての議論・所見

■メリット

- ・印刷費・郵送費の負担が軽減できる（25～35 万円）。
- ・会費未払いの会員の ROG を保管しているが、その ROG 冊子体の残部がかなりあり、毎年増え続けているという問題がある。それが解決される。
- ・ROG 投稿論文が減少傾向にあり、最近では 1 巻の掲載論文数が少な過ぎて、冊子体にできるかどうかの限界付近で運営されている（背表紙がつくれないほど、ページ数が少ないなど）。それを気にしなくても済むようになる。

■デメリット

- ・表紙デザインを毎巻変えて作成するなど、冊子体の工夫をしてきた。そのような工夫する部分が減り、味気ない雑誌になってしまう。
- ・電子版は誰でも無料でダウンロードできるため、ROG 論文（高い画質の印刷体）を得るという学会員のインセンティブがなくなる。

※編集委員会の基本的な意見は、予算的に余裕があるのであれば、冊子体の存続は予算が許す限り、「味のある雑紙」を積極的に廃止する理由はないというものである。

7 議事 4 — その他

7.1 来年度のシンポジウム開催場所

以下の内容について事務局から提案があり、出席者の賛成多数により承認された。

(1) 経緯

- ・ 2018 年度 東京海洋大学へ異動された山中会員から世話人を引き受けたい由の申し出があり、世話人を快諾してくださった（代表世話人：山中寿朗 会員）。
- ・ 2019 年度 前回の開催から 10 年以上経過している金沢大学で長谷川卓 会員の世話人で 9 月初旬の開催を計画中である（代表世話人予定：長谷川卓 会員）。
- ・ 2020 年度 開催間隔から九州大学、島根大学、石油資源開発、産業技術総合研究所に検討いただけないか、理事会および総会で打診して候補地を募りたい。

(2) 第 37 回有機地球化学シンポジウム（2019 年金沢シンポⅡ）開催計画案

- ・ 日 程 2019 年 8 月末または 9 月初旬（予定）
- ・ 会 場 金沢市内（金沢大学または金沢市中心部を予定）
- ・ 世話人 長谷川 卓 会員（金沢大学）

7.2 会員の現況（2018 年 8 月 20 日現在）

以下の内容について、事務局から報告があった。

会員総数	168 名	（2017 年度は 156 名）
正会員	125 名	
学生会員	28 名	
名誉会員	7 名	
賛助会員	8 社	

7.3 会費滞納者への働きかけ

以下の内容について、事務局から報告があった。

(1) 長期滞納者への働きかけ

■経緯と目的

財務担当からの度重なる連絡にも関わらず、年会費を滞納したうえで登録抹消となる会員が後を絶たない。そこで、6 年を超える会費滞納者には知り合いの会員を通して連絡することにより、未納分の年会費の清算と、希望があれば自ら退会していただくよう働きかけた。

■結果（2018 年 7 月 24 日現在）

働きかけの対象者は 26 名であったが、このうちの 7 名が滞納した会費を支払ったうえで会員を継続、4 名が滞納した会費を清算のうえ退会、7 名が連絡担当者（主として指導教員）からの申し出により会員登録の抹消となった。26 名の約 70%にあたる 18 名から会員継続、退会または登録抹消の意向が示され、滞納状態にあった会費のうち 87,000 円が学会に納められたことから、2017 年度末をもってこの働きかけを終了することにした。

(2) 最近の会費滞納者への働きかけ

■背景

2018 年度より年会費の支払い方法が変更になったことから、2017 年度以前の年会費に未払金のある会員に対して一斉メール（Bcc）にて未払金額の通知及び納付依頼を行った。

■実施内容（一斉メールの送信履歴）

- ・ 第一回：2018 年 3 月 8 日
- ・ 第二回：2018 年 4 月 6 日
- ・ 第三回：2018 年 7 月 9 日

■結果と今後の対策

- ・ 2017 年度以前の年会費に未払金があった会員は今年度初頭には 91 名だったが、働きかけの結果、2018 年 8 月 21 日時点で 43 名の方からお支払いをいただき、残り 48 名となった（内 13 名（正会員 3 名、学生会員 10 名）は連絡先が不明）。
- ・ 第一回、第二回では 20 名近くの会員から応答があったが、第三回ではニュースレターの配信直後にも関わらず、メールを送信した 38 名の内、反応があったのはわずか 2 名に留まった。このことから一斉メールではこれ以上の納付は見込めないものと思われる。中には、一方的に退会を宣言してそのまま音信不通となるケースも！
- ・ 今後は、Bcc ではなく、個人宛にメールで納付のお願いを行なっていく。

7.4 長期財務計画

以下の内容について、事務局および ROG 編集委員会から報告があった。

(1) 背景

- ・ 現時点で予算的な問題が生じている訳ではない
（ただし、個人会員の年会費 < ROG 印刷費・送料）。
- ・ 今後法人化した時の出費（法人の維持費用や事務局運営代行費用）やシニア会員の増加による収入減を考えると、予算が切迫する可能性もある。
- ・ ROG 冊子体の残部の増加の問題。

→学会の支出の大半を占める冊子体 ROG の印刷費と送料を圧縮するために、冊子体を廃止し電子版（PDF）のみにしたらどうという問題が生じるか？

(2) 今後の課題（特に財政面から）

- ・ 現時点では、法人化やシニア会員制度の導入による財政への影響は不透明。法人化に必要な費用の試算やシニア会員の制度設計と並行して、電子化の議論を進める必要がある。
- ・ 年会費が値上げされたばかり。会費に見合ったサービスなのか検討が必要？
- ・ 電子化に伴う環境整備。会員のみが閲覧できるシステムの導入？追加費用が必要か？
- ・ 会員外への ROG の販売（価格等）をどうするか？
- ・ 年会費未払者への対応をどうするか？

(3) 2014 年度～2017 年度決算と 2018 年度以降の予算の推移

一般会計

大項目	小項目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
		決算	決算	決算	決算	通期見通し	予算	試算
収入	賛助会費	200,000	200,000	200,000	180,000	220,000	200,000	200,000
	個人会費	117,000	156,000	313,000	182,000	568,000	403,000	403,000
	ROG販売	2,082	2,205	2,205	0	4,410	2,000	2,000
	シンポ協賛金・剰余金	60,000	90,000	170,000	239,500	60,000	60,000	60,000
	シンポ参加費				0	192,000	200,000	200,000
	利子ほか	67,456	486	206	13	13	10	10
	計	446,538	448,691	685,411	601,513	1,044,423	865,010	865,010
支出	ROG印刷費	284,800	162,000	322,164	251,316	143,964	300,000	300,000
	ROG送料	19,450	11,304	19,980	11,016	19,980	30,000	30,000
	HP維持費	28,404	28,404	28,836	28,836	28,000	28,000	28,000
	シンポジウム費	8,385	0	472,634	47,094	100,000	100,000	100,000
	事務局経費・雑費	15,804	10,152	10,708	104,037	210,000	220,000	220,000
	法人化関連費					200,000	250,000	70,000
	計	356,843	211,860	854,322	442,299	701,944	928,000	748,000
収支		89,695	236,831	-168,911	159,214	342,479	-62,990	117,010
次年度繰越金		2,556,708	2,467,013	2,230,182	2,399,093	2,741,572	2,678,582	2,795,592

7.5 ROG 電子化の運用

以下の内容について、早稲田副会長から報告があった。

(1) 概要

ROG は国立情報学研究所 (NII) が運営する「電子図書館 (NII-ELS)」から科学技術振興機構 (JST) が運営する J-STAGE に 2017 年 4 月に移行し、全巻公開*を完了した。新刊については、学会 HP に掲載後、速やかに J-STAGE に掲載している。本会 HP と J-STAGE では、PDF ファイル自体は同じであるが、J-STAGE では DOI が付与され書誌情報が追加されているため、検索されやすくなっている。また、引用文献についても DOI が埋め込まれている。

*Vol. 19～24 の技術論文（全部で 18 編）は、記念事業（地球・環境有機分子質量分析マニュアル）との関係から NII-ELS に掲載しなかったため、J-STAGE にも未掲載。学会 HP には掲載済。

(2) 作業の詳細（2017 年度総会以降の主な作業）

2017 年 11 月 J-STAGE から、新画面インターフェイスへの切り替えの連絡を受け、新画面に対応した新たな情報（学会概要の紹介文、編集委員リストなど）を追加。

2018 年 3 月 Vol. 33 を公開。

2018 年 7 月 著者の漢字表記の文字化け（2 件）について指摘を受け、修正。

Researches in Organic Geochemistry

Online ISSN : 2189-7891
Print ISSN : 1344-9915

資料トップ 巻号一覧 この資料について

J-STAGEトップ / Researches in Organic Geochemi ... / この資料について

日本有機地球化学会について

大気圏、水圏、岩石圏、生命圏、そして宇宙空間に分布する有機物（炭素化合物）を研究している研究者、教育者、学生が有機地球化学会の主な会員です。会員の多くは、地球惑星試料、環境試料中に含まれる有機化合物について、化学、地球・宇宙科学、生物科学を横断するユニークな研究を展開しています。本会は、学会誌の発行、シンポジウムの開催、ニュースレター、会員メーリングリストの活用などを通して、有機物の地球化学に係る最新情報の交換や研究分野の発展を促すための活動を続けています。

日本有機地球化学会 が発行

編集委員会

沢田 健

編集委員長

北海道大学大学院理学研究院 地球惑星科学部門

三瓶 良和

編集委員

島根大学総合理工学研究科

関 宰

編集委員

北海道大学低温科学研究所

カ石 嘉人

編集委員

北海道大学低温科学研究所

三村 耕一

編集委員

名古屋大学大学院環境学研究科

過去の巻号を選ぶ

巻

号

実行

論文を投稿する

RSSフィード(号)



RSSフィード(論文)



お気に入り & アラート

☆ お気に入りに追加

☆ お知らせアラート

☆ 新着アラート

このジャーナルを購読する

7.6 他学会からの共催依頼

以下の内容について、事務局から報告があった。

■日本地質学会 堆積部会所属 4 セッション（2018 年 9 月 5 日～9 月 7 日、北海道大学）

昨年に引き続き地質学会の堆積部会所属の下記 4 セッションを本会が共催する。

- ・石油・石炭地質と有機地球化学
- ・堆積物（岩）の起源・組織・組成
- ・炭酸塩岩の起源と地球環境
- ・堆積過程・堆積環境・堆積地質

この共催により、本学会会員（学生会員も含む）の参加登録費は地質学会会員と同額となり、これらのセッションで発表が可能となった。なお、共催に関して本学会の経済的な負担は生じなかった。

7.7 会員からのご質問とご意見

■学会を代表する会員が日本地球惑星科学連合の代表者会議に出席する場合、規定がなければ学会経費として交通費を支出できないのではないか。

- ・学会経費の支出については、学会経費として処理されている郵送費と同様に、監事のご意見をお聞きしながら判断するものとする。なお、日本地球惑星科学連合の代表者会議は関東（幕

張本郷)で開催されており、高野理事を学会の窓口とする提案は、代表者会議への出席が比較的容易である点を考慮に入れたものである。(事務局)

■最近になって一般社団法人となった学会の情報は、これから日本有機地球化学会で定款や法人化の各種手続きを検討するうえでおおいに参考になるはずである。

■総会の委任状は郵便で受け取るのか。

・委任状はメールで受け取ることを考えている。(奈良岡理事)

■シニア会員の年齢資格を「60 歳以上」にするとの提案だが、これを「65 歳以上」としてよいのではないか。

・60 歳からということに関しては、運用前に、あらためて理事の皆さんに問い合わせ、その意見を踏まえて、60 または 65 に決定して早速開始したいと思う。9 月の最終週ごろに問い合わせ、10 月中に決定し、間もなく対象となる会員・旧会員に通知する、という計画である。(鈴木会長)

【正会員と学生会員の皆様へのお願い】
日本有機地球化学会 2019 年 年会費のお支払いについて

このことについて、以下の会員区分に従い年会費の支払いをお願い申し上げます。また本年度、シニア会員制度が新設されましたので、希望される方はぜひ申請をお願いいたします。なお、賛助会員の方々には別途ご案内させていただきます。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

日本有機地球化学会 事務局
(管理委託:会員管理サービス「シクミネット」)

日本有機地球化学会会則第6条（一部抜粋）

会員は次の種別に従って会費を毎年度前納するものとする。

正会員：年額 3,000円(2018年1月1日～)

学生会員：年額 1,000円

<年会費支払い方法>

シクミネットによるオンライン決済システム(<https://m6.members-support.jp/ogeochem/>)

(メニュー → お支払い → 会費支払い)

(コンビニ、ペイジー、クレジットカードがご利用いただけます。)

【ご案内】

(1) 会員ID及び初期パスワードがご不明な場合は、事務局までお問い合わせください。

(2) 複数年の前払いをされている会員様で不足分が生じる場合には、その支払いについて、個別にご連絡させていただきます。

(3) 過去に未払いがある会員様へは、個別にご連絡させていただきます。

本件に関するお問い合わせは、

日本有機地球化学会事務局 office@ogeochem.jp

まで、よろしくお願い致します。

日本有機地球化学会 会員専用WEB

<https://m6.members-support.jp/ogeochem/>

The screenshot shows the member portal interface. At the top, a blue header bar contains the text '日本有機地球化学会 会員様の個人ページ' on the left and a user icon with the text 'ようこそ' on the right. Below the header, the page is divided into a left sidebar and a main content area. The sidebar contains a 'メニュー' (Menu) section with a red box around it and a red arrow pointing to it. Below 'メニュー' are links: 'ホーム' (Home), 'ユーザー管理' (User Management), 'イベント情報' (Event Information), 'お支払い' (Payment) which is highlighted with a red box and a red arrow, '会費支払い' (Membership Fee Payment), '支払状況確認' (Check Payment Status), 'その他支払い' (Other Payments), 'マニュアル' (Manual), and 'ログアウト' (Logout). The main content area has a 'ホーム' (Home) section with two notices. The first notice is titled '事務局からのお知らせ' (Notice from the Secretariat) and dated '2017/12/20', with the text '【会員各位へのお断り】 日本有機地球化学会 年会費のお支払いについて' and a link '▼続きを読む'. The second notice is titled 'イベント情報' (Event Information) and dated '2017/12/20', with the text '第36回有機地球化学シンポジウム (2018年 品川シンポジウム) について' and a link '▼続きを読む'. At the bottom, a dark blue footer bar contains links: '個人情報保護方針' (Privacy Policy), '運営' (Operation), 'お問い合わせ' (Contact Us), and 'スタートアップガイド' (Startup Guide). Below these links, it says '日本有機地球化学会 事務局' (Japan Organic Geochemistry Society Secretariat) and 'Copyright © 2016 日本有機地球化学会 会員様の個人ページ, All rights reserved.'

日本有機地球化学会 理事会資料抜粋

会費収納・会員管理システム「シクミネット」導入の進捗報告

2018 年度 年会費より、日本有機地球化学会の年会費のオンライン決済をスタートし、約 1 年が経過しました。進捗状況をご報告します。

1. オンラインシステムで納付された皆様からの所感・コメント

◎ シクミネットは、大変良いシステムである。各会員自身による「電子領収書」の発行ができるのは、便利でありがたい。

◎ ID・パスワード送付の際、差出人が「シクミネットサポートセンター」となっている。一般会員は、この差出人を見てジャンクメールと思ってしまうかも知れない。

【対応】 これ以降、ID・パスワードの差し出し元は、約 200 名の各会員様お一人おひとり、すべて、jamstec.go.jp から送付しました。一部、電子メールが届かない会員への個別対応として、郵送などの代替手段を行っている。

◎ ブラウザが古い場合、システムが進まない可能性があるのではないかと。

【対応】 同様の問い合わせがあった場合は、事務局による個別対応、もしくは、会員様に、より新しいブラウザでご対応頂くか、いずれかの方法で対応している。

◎ 会費支払い手続きで、「入会・更新案内」のボタンの後で「お支払い明細選択」で会費をチェックして、「次へ」のボタンを押すと、「お支払い内容確認」のところで、選択するボタンが「戻る」と「完了」になる。ここも「次へ」が良いような気がする。

【対応】 システムの初期設定のフローなので、この設定を変更するのは、費用対効果のバランスになる。

◎ 領収書に何年度の会費であるのか明示されていないので、領収書に年度と会費である旨、記述したほうが良いのでは。

【対応】 追加オプション導入するかどうかは、費用対効果のバランスを考慮し、承認が必要。同様の問い合わせがあった場合は、有機地球化学会ホームページ上の年会費の記載、電子メール文書、個人サイトの電子決済の手続き画面印刷を提出するなどして、代替証明して頂くようにご案内している。

2. 年会費の納付状況をリアルタイムで確認

事務局は、入金状況をリアルタイムで把握できます（2018 年 1 月 12 日～19 日の例）。高確度な電子記録をエクセルでエクスポートでき、例えば、年度末の会計監査が効率的に行えます。各会員と事務局の双方が、納付・未納状況の情報共有を「可視化」できる点が大きな利点です。

* 理事（13 名）の 2018 年度 年会費納付率 = 100 % （2018 年 3 月末時点）

3. 事務局で対応できない場合のテクニカルサポートの窓口の設置

個人IDでログイン後、会員サイトから窓口を参照できます。

The screenshot shows the member portal of the Japanese Society for Chemical Synthesis (JSCS). The header includes the JSCS logo and the text '日本有機地球化学会 会員様の個人ページ' (JSCS Member's Personal Page) and 'ようこそ 日本有機地球化学会' (Welcome to JSCS). The left sidebar contains a 'メニュー' (Menu) with links to 'ホーム' (Home), 'ユーザー管理' (User Management), 'イベント情報' (Event Information), 'お支払い' (Payment), '会費支払い' (Membership Fee Payment), '支払状況確認' (Payment Status Confirmation), 'その他支払い' (Other Payments), 'マニュアル' (Manual), and 'ログアウト' (Logout). The main content area is titled 'ホーム' (Home) and features a section '事務局からのお知らせ' (Notice from the Secretariat). The notice, dated 2018/01/01, is titled '【ご案内】オンラインシステムのテクニカルサポート窓口について' (【Guide】About the Technical Support Window of the Online System). It states that the technical support window for the online system is being introduced and that members should contact the support window for any inquiries. The support window is identified as 'しゅくみネット株式会社・ITソリューション事業部' (Shukuminet Co., Ltd. IT Solution Business Department) and '日本有機地球化学会・ご担当 宮下（みやした）様' (JSCS - Your Contact: Miyashita). Contact information is provided: '【連絡先・所在地】' (【Contact Information/Location】), 〒150-0031 渋谷区桜丘町10-13 野元第一ビル2F・3F (Nohara Daiichi Building 2F・3F), 電話 03-3463-0770 FAX 03-3463-0771 (Tel 03-3463-0770 Fax 03-3463-0771), and メール: miyashita@shukuminet.com (Email: miyashita@shukuminet.com). Below the notice, there are two links: '▼続きを読む' (▼ Read More) and '▼続きを読む' (▼ Read More).

4. その他関連事項

- * 2017 年以前で未入金がある会員様、前納預かり金に不足がある会員への追加徴収（2018 年 1 月 4 日理事会通達）は、個別に連絡しています（財務担当）。ただし、未納分の踏み倒しによる一方的な退会への対応について苦慮している（財務担当、会員担当）。
- * 退会の申出があった場合には、未納分をお支払い頂いたのちに退会承認とする基本方針は、従来通りです。特に、学生会員を持たれている指導教官の各位には、この点について再度ご確認をお願いしたいと思います（事務局）。
- * 従来、財務担当が手作業で行っていた煩雑な入金管理が、可視化され、二度手間・三度手間を生じず、財務担当・事務局と時間差無く（リアルタイムで）情報共有できる体制になり、学会の運営基盤が強化されたと考えています。入会・退会の手続きについては、資料を別添しました。

Announcement

2019 年度有機地球化学賞（学術賞）選考候補者推薦の募集

有機地球化学賞（学術賞）2019 年度受賞候補者選考委員会
委員長 坂田 将

有機地球化学賞（学術賞）受賞者選考規則により、2019 年度同賞選考候補者の推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえご推薦ください。

記

候補者の資格：有機地球化学の分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

募集の方法：本会会員の推薦による（自薦他薦を問いません）。

推薦の方法：下記の事項を A4 サイズの用紙に任意の様式で記入し、書留で郵送すること。（同内容のものを電子メールでも提出してください）

- 1) 候補者の履歴（大学卒業以降の学歴、職歴、その他）
- 2) 推薦の対象となる研究題目および推薦理由
- 3) 研究業績目録
- 4) 推薦の対象となる主要な論文 10 編（別刷りかコピー）
- 5) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日：2019 年 5 月 31 日（金）（当日消印有効）

提出および問い合わせ先：〒305-8567 つくば市東 1-1-1 中央第 7
産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門
地圏微生物研究グループ 坂田 将
電話 029-861-3898、ファックス 029-861-3666
E-mail : su-sakata@aist.go.jp

これまでの受賞者と研究題目については <http://www.ogeochem.jp/archives.html>
（日本有機地球化学会HP「学会アーカイブス」）をご覧ください。

研究奨励賞（田口賞）2019 年度受賞候補者の募集

研究奨励賞（田口賞）2019 年度受賞候補選考委員会
委員長 山内敬明

研究奨励賞（田口賞）受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては下記をご参照のうえ、受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格：生年月日が1984年4月2日以降であり、有機地球化学、石油地質学、堆積学の3分野のいずれかで優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。

募集の方法：本会会員の推薦による（自薦他薦を問いません）。推薦の方法：A4サイズ of 用紙に下記事項を任意の形式で記述し、郵送するか、PDFファイルとしてE-mailに添付してお送り下さい。

- 1) 推薦理由及び研究題目
- 2) 研究業績目録
- 3) 研究論文の別刷りまたはコピー
- 4) 履歴書
- 5) 推薦者の氏名と連絡先

*ご存知の通り、昨年度のように同一年度に複数名の受賞ということもあります。会員の皆様におかれましては、是非とも候補者ご推薦のほどお願い致します。

締め切り日：2019 年 5 月 31 日（木）（当日消印 有効）

提出及び問い合わせ先：〒819-0395 福岡市西区元岡744九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門 山内敬明

電話：092-802-4217 ファックス（電話に同じ）：092-802-4217 E-mail：

yamauchi.noriaki.439@m.kyushu-u.ac.jp

これまでの受賞者と研究題目については <http://www.ogeochem.jp/archives.html>（日本有機地球化学会 HP「学会アーカイブス」）をご覧ください。

ROG 34 巻 1 号が WEB 公開

ROG 35 巻へ論文を投稿しましょう！

Researches in Organic Geochemistry
編集委員長 沢田 健

ROG (Researches in Organic Geochemistry)は本学会の学会誌であり、有機地球化学およびそれに関連する分野の研究論文を掲載し、WEB 公開および冊子を発行しております。2018 年 12 月 10 日に ROG Vol.34、No.1 が WEB 公開され、No.2 を含めて Vol.34 が 2018 年 12 月末に発行される予定です。また、ROG Vol.34 の冊子を 2019 年 2 月初め頃に本学会会員の皆様の下に郵送にてお届けできると思います。Vol.34(2018 年巻)は複数を刊行しますが、この数年は投稿された論文が少ないために一つの号の論文数が減少しております。ROG は会員皆様の論文投稿で成り立っておりますので、積極的なご投稿をどうぞよろしくお願いいたします。ROG Vol. 35(2019 年巻)への論文投稿は、すでに受け付け体制にあります。ROG Vol.35、No. 1 は 2019 年 6～9 月頃、No. 2 以降は 2019 年 10 月以降に WEB 公開する予定で進めております。冊子体はこれまでと同様に 12 月頃の発行を予定しております。重ねて申し上げますが、皆様からの積極的な論文投稿をお待ちしております。

ROG Vol.33 から、「議論(Discussion)」という新しい論文のカテゴリーが加わりました。議論(Discussion)は、これまでに報告された論文に対しての異なる意見や修正の指摘、それに関わる議論などを記述したものです。この新設によって、積極的に研究成果を議論する場がつけられます。

研究成果に対する自由な議論を公表することは、対象となった研究論文の精査のみならず、その研究領域、さらには研究分野の発展を促すことになると思います。

現在の ROG の論文のカテゴリーは、1) 論文(article)、2) 短報(short article)、3) 技術論文(technical paper)、4) 総説(review)、5) 議論(discussion)になります。有機地球化学会シンポジウムで発表された内容や、博士論文・修士論文成果の発表なども歓迎いたします。詳細は、ROG Vol.34 の巻末の投稿規定をご参照ください。また、上記の枠に入らない論文や企画でも、有機地球化学の発展に貢献し、学会員にとって有意義な論文・企画であれば、随時、編集委員会で検討を進めます。積極的に編集委員会にお問い合わせ下さい。その他、いろいろなご意見、ご要望、ご感想をお寄せください。ご投稿・ご連絡は下記までお願いいたします。

PDF 添付ファイルによる電子投稿：
sawadak@sci.hokudai.ac.jp

郵送：〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学 大学院理学院 地球惑星科学部門

沢田 健 編集委員長宛

(TEL: 011-706-2733、 FAX: 011-746-0394)

日本有機地球化学会 シニア会員制度の新設について

会長 鈴木徳行

本学会は歴史を重ね、間もなく 2022 年に設立 50 周年を迎えます。この間、長年にわたって会員を続けてこられ本学会の発展に多大な貢献をしていただいた現会員、元会員の皆様がおられます。このようなご経験豊かなシニアの皆様は心から敬意を表し、また、今後も末永くご支援をいただきたいと希望し、総会での承認を経て本学会にシニア会員制度を新設することといたしました。本制度は下記の条件を満たす正会員と既に退会された元正会員の中でシニア会員への登録を希望される方に適用されます。

- (1) 申請時に 60 歳以上、かつ正会員歴が通算 10 年以上あること。
- (2) 常勤職に就いていないこと。
- (3) 会員期間の会費が完納されていること。

シニア会員は年会費が免除されます。本学会のニュースレターや各種案内を電子メールで配信します。学会誌は J-STAGE にて電子公開されていますが、冊子体の学会誌が必要な場合には有料で配布します。年会・シンポジウム等へ参加していただく場合、参加費は原則として学生会員と同額となります。ただし、選挙権・被選挙権、総会議決権はありません。

本学会は来年 2019 年に法人化する予定です。これを機に、経験豊かなシニア会員のお力添えをいただきながら、新しい会員を迎えて次のステージを目指したいと考えています。シニア会員の対象となられる現会員、元会員の皆様には、本制度の主旨をご理解いただき、シニア会員として本学会の発展に末永くご支援くださいますようお願いいたします。

シニア会員への移行や再登録をお申し込みの場合には、下記の本学会事務局へ電子メールでご連絡下さいますようお願いいたします。

日本有機地球化学会 事務局： office@ogeochem.jp

日本有機地球化学会 入会および退会手続きのお知らせ

日本有機地球化学会 入会の手続き

- [illegible]

日本有機地球化学会 退会の手続き

1. 退会希望者からの事務局受付
年会費未納分の有無について、確認する（財務担当・会員担当）。
2. 年会費未納分がある場合
退会希望者に年会費の未納分の納付催促を行う（財務担当）。
未納分が納付されない場合、退会承認を認めない方針は、これまで通り。
3. 理事会での退会承認
理事会へ承認依頼を行い、1 週間の審議期間に異論がなければ、退会承認とする。
退会希望者へ、その旨、メール連絡する（事務局長）。
この際、シニア会員への移行希望がある場合は、会員資格の確認を行う。
4. オンラインシステムでの会員 ID の扱い
退会希望者の会員 ID のステータスを「退会」とする（会員担当）。
本会に登録していた記録履歴は消去せず、オンラインシステムに残しておく。
5. 退会後の対応
ROG 誌の送付先リストから退会会員の郵送先を削除する（ROG 編集長）。
退会会員のメールアドレスを学会メーリングリストから削除する（情報担当）。

ご不明な点は、事務局 (office@ogeochem.jp) までお知らせ下さい。

以上

日本地球惑星科学連合（JpGU）への団体会員承認のお知らせ

公益社団法人日本地球惑星科学連合（JpGU）の第4回理事会（2018年9月28日）において、日本有機地球化学会の新入会団体会員の「承認」が行われました。これを契機に、1）日本有機地球化学会の社会的認知度の向上、2）JpGUとのタイアップは、新しい会員参入（特に若手会員）の機会になり、3）Impact Factor 2.5のジャーナル（Progress in Earth and Planetary Science (PEPS) 誌）との連携を図れます。2018年10月1日現在の団体会員（50団体）を下図に示します。以降の連絡窓口は、日本有機地球化学会事務局および高野 淑識 理事が担当します。

以上

The screenshot shows the homepage of the Japan Geoscience Union (JpGU). The header includes the JpGU logo, navigation links (トップページ, 日本地球惑星科学連合とは, 団体会員 (参加学協会), 連合大会, Progress in Earth and Planetary Science), and a search bar. The main content area is titled "団体会員 (地球惑星科学関連学協会)" and lists 50 member organizations in three columns. A sidebar on the right contains links for login, membership services, and various resources. The footer provides contact information and copyright details.

団体会員 (地球惑星科学関連学協会)

団体会員の皆様へ：
ご登録情報に変更がありましたら、下記サイトにログインして変更をお願いいたします。
<日本地球惑星科学連合 団体会員サイト>

団体会員 (2018年10月1日現在 50団体)

一般社団法人日本宇宙生物科学会	生命の起源および進化学会	地理教育研究会
一般社団法人 日本応用地質学会	石油技術協会	一般社団法人地理情報システム学会
日本温泉科学会	公益社団法人 日本雪氷学会	公益社団法人東京地学協会
日本海洋学会	日本測地学会	東北地理学会
特定非営利活動法人日本火山学会	日本大気化学会	土壌物理学会
形の科学会	日本増殖学会	一般社団法人日本粘土学会
日本活断層学会	日本第四紀学会	日本農業気象学会
公益社団法人 日本気象学会	日本地学教育学会	公益社団法人物理探査学会
一般社団法人 日本鉱物科学会	地学団体研究会	陸水物理研究会
日本地圏学会	公益社団法人日本地下水学会	一般社団法人 日本リモートセンシング学会
日本古生物学会	日本地球化学会	日本惑星科学会
日本沙漠学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	地球環境史学会
資源地質学会	日本地形学連合	日本大気電気学会
公益社団法人日本地震学会	一般社団法人日本地質学会	日本自然災害学会
日本情報地質学会	日本地熱学会	
日本水文科学会	地理科学学会	
一般社団法人水文・水資源学会	公益社団法人日本地理学会	
生態工学会	日本地理教育学会	

公益社団法人日本地球惑星科学連合
所在地：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階
All Rights Reserved. Copyright 2005-2017 Japan Geoscience Union

編集後記：

新年あけましておめでとうございます。本年も会員の皆様からの記事のご寄稿をお待ちしております。
(大)

本年もどうかよろしくお願いいたします。在外先で新年を迎えました。(高)

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。皆様にとって良い
1年になるようお祈り申し上げます。(金)

発行責任者 日本有機地球化学会会長 鈴木 德行
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院 理学研究院 地球惑星科学部門
Phone& Fax: 011-706-2730

日本有機地球化学会事務局

〒107-6332 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー
国際石油開発帝石株式会社 技術本部 評価技術ユニット内
事務局長 稲場 土誌典
Phone: 03-5572-0263、 Fax: 03-5572-0269
e-mail: office@ogeochem.jp
ゆうちょ銀行口座 00110-7-76406 (名義人 日本有機地球化学会)

編集者 大場 康弘(北海道大学低温科学研究所) 金子 雅紀(産業技術総合研究所) 高橋 聡(東
京大学大学院理学研究科)
e-mail: news@ogeochem.jp

有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス: <http://www.ogeochem.jp/>